

信用金庫の個人預金口数

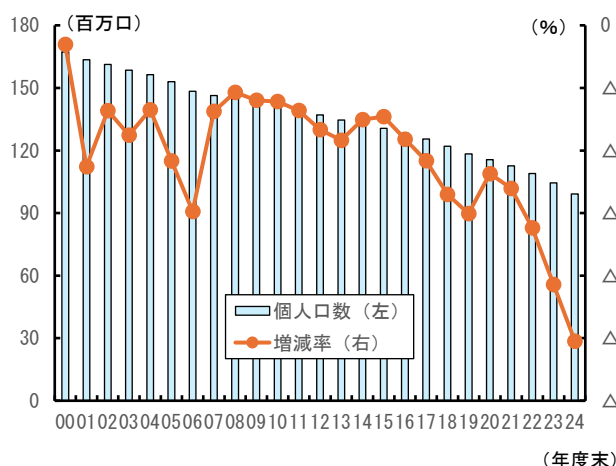
ポイント

- 2024 年度末の信用金庫の個人預金口数は、前期比 5.0%、527 万口減少の 9,917 万口となり、4 年連続でマイナス幅が拡大した。
- 2000 年度末から 2024 年度末にかけて個人預金口数が 40.1%減少した一方で、残高は 51.6%増加しており、結果、1 口あたり預金残高の上昇がみてとれる。
- 2024 年度末の地区別の個人口数は、全 11 地区で前期比減少しており、なかでも北海道の減少（7.0%減）が目立つ。
- 2024 年度末の信用金庫別の 1 口あたり預金残高（構成比）は、①100 万円未満が 33.8%、②100 万円以上 150 万円未満が 53.9%、③150 万円以上は 12.2%となった。

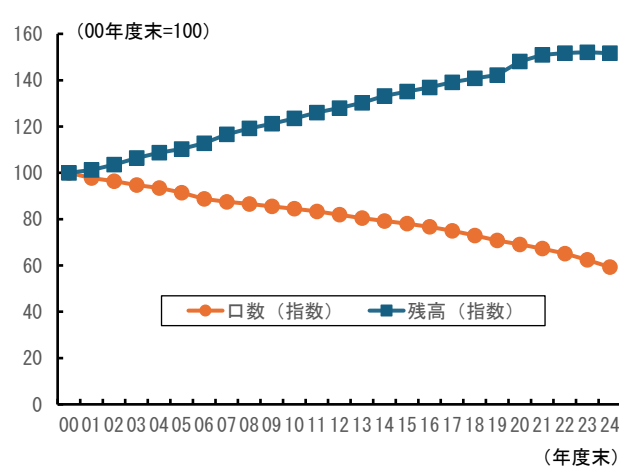
1. 全国状況

2024 年度末の信用金庫の個人預金口数¹は、前期比 5.0%、527 万口減少の 9,917 万口となり、1 億口の大台を割り込んだ（図表 1）。効率的な営業活動への転換、マネー・ローンダリング対策の徹底、更には未利用口座の解約などから信用金庫の個人預金口数は減少が続いている。また、2000 年度末から 2024 年度末にかけての個人預金口数と残高の推移変化をみると、口数が 40.7%減少した一方で、残高は 51.6%増加した（図表 2）。その結果、1 口あたり個人預金残高の増加が進んでいる。

（図表 1）個人預金口数の推移



（図表 2）個人預金口数と残高の推移変化



（備考）1. 本稿では他業態との合併等を考慮しない。

2. 図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

¹ 例えば、1 人の顧客が定期預金と定期積金を契約すると、口数も複数となる。そのため、口数が顧客数（通帳の発行数）と一致するとは限らない。

2. 地区別の状況

2024 年度末の個人預金口数は、全 11 地区で前期比減少しており、なかでも北海道の減少（7.0%減）が目立つ（図表 3）。2024 年度末の 1 金庫あたり個人預金口数は、東海の 68.4 万口から、九州北部 16.3 万口まで開きがみられる。

また 2000 年度末と比較すると、北陸の 50.2%減が最も大きく、それに東京（49.0%減）、中国（48.5%減）が続いた。それに対し四国の減少幅は 24.5%減に留まる。

（図表 3）地区別の個人預金口数

(単位：万口、%)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		23年度末比		24年度末 1金庫口数
						増減額	増減率	増減額	増減率	
北海道	726	660	538	473	440	△ 286	△ 39.3	△ 33	△ 7.0	22.0
東 北	796	682	549	487	458	△ 338	△ 42.4	△ 28	△ 5.9	16.9
東 京	2,559	2,047	1,578	1,380	1,304	△1,255	△ 49.0	△ 75	△ 5.4	56.7
関 東	3,498	2,847	2,298	2,035	1,929	△1,568	△ 44.8	△ 106	△ 5.2	39.3
北 陸	586	489	358	309	291	△ 295	△ 50.2	△ 18	△ 5.8	19.4
東 海	3,304	2,938	2,498	2,412	2,326	△ 978	△ 29.6	△ 86	△ 3.5	68.4
近 畿	3,013	2,616	2,210	1,984	1,873	△1,140	△ 37.8	△ 111	△ 5.5	64.6
中 国	937	768	591	509	482	△ 454	△ 48.5	△ 27	△ 5.3	24.1
四 国	366	330	305	287	276	△ 89	△ 24.5	△ 10	△ 3.5	27.6
九州北部	372	304	249	220	211	△ 160	△ 43.0	△ 8	△ 4.0	16.3
南九州	544	429	364	325	306	△ 237	△ 43.6	△ 18	△ 5.7	23.5
全 国	16,734	14,136	11,562	10,445	9,917	△6,816	△ 40.7	△ 527	△ 5.0	39.0

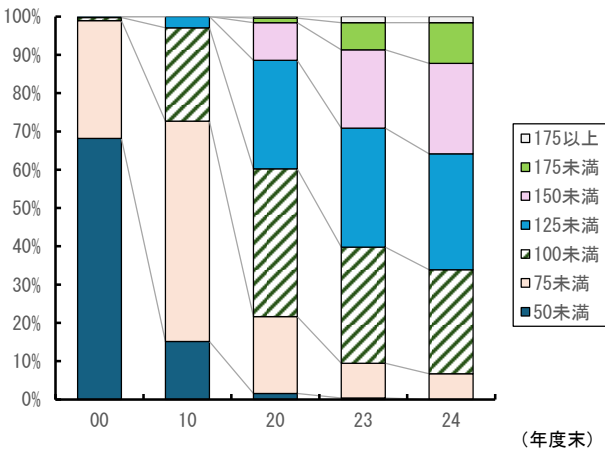
（備考）沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

2024 年度末の信用金庫別の 1 口あたり個人預金残高（構成比）は、①100 万円未満が 33.8%（86 金庫）、②100 万円以上 150 万円未満が 53.9%（137 金庫）、③150 万円以上は 12.2%（31 金庫）となった（図表 4）。2024 年度末の 1 口あたり残高は、121 万円だったが、中央値をみると 113 万円となる。また 1 口あたり残高 60 万円未満が 7 金庫、逆に 200 万円以上は 1 金庫それぞれあった。

2000 年度末と 2024 年度末の構成比を比べると、50 万円未満が 68.1%（253 金庫）から 0%（なし）になった。一方、100 万円以上は 0.2%（1 金庫）から 66.1%（168 金庫）に変化している。

（図表 4）信用金庫別の 1 口あたり個人預金残高（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。